

※著作権取得済み



障害がある人の就労を目的とした貧農園を運営する「エスプールプラス」(東京)で農園開発に携わって約9年。就職を希望する障害者に長く安心して働ける場を提供したいとの一心で汗を流してきた。

「わーくはびねず農園」と呼ばれ、大阪や千葉、埼玉などに37カ所ある。提携を結ぶ企業に農園を貸し出し、企業が社員として雇用した障害者に働いてもらう。安全で作業しやすい空間づくりを意識してきた。

大阪市淀川区にある「大阪ファーム」。LEDの白い光に包まれ、広々とした屋内農園には、水耕栽培の設備が何列も並び、トマトやレタス、小松菜など約40種類の野菜が育つ。働いている障害者は全ての農園を合わせて約300

## 安全な作業環境を意識

障害者就労の農園運営 池本峰雄さん(42) 大阪市



# やりがい育て定着に

1980年生まれ。兵庫県伊丹市出身。人材会社「エスプール」などを経て2014年からエスプールプラス社員。現在はわーくはびねず農園西日本事業部長。単身赴任中で東京に帰省した際に8歳と6歳の子供と遊ぶことが楽しみという。

過ごした。「働きたくても働けない。自分と同じような思いを抱く人たちの力になりたい」。そう考えるようになった頃、勤務先の子会社のエス

0人になる。自らの手で育てる経験がやりがいにつながる。との声もあり、就労開始後、やめずに続けている割合(定着率)は9割を超えた。運営に力を入れてきた背景には自身の体験がある。幼い頃から腎臓に持病があり、入退院を繰り返した。20代で人工透析を導入し障害者手帳を取得。働きながら、週

に2〜3回は透析治療を受けた。仕事への意欲はあるものの通勤途中に体調を崩すことも少なくなく、「何で自分だけ……」と涙を流すこともあった。31歳の時腎移植を受けた。休職したが、体調は徐々に安定し半年後に復帰した。ただ、休職中は社会とのつながりが薄くなり、孤独な日々を過ごす環境を模索した。21年か

【松本紫帆】